施策評価シート

施策等名称	八ヶ岳総合博物館の充実	体系番号	0201020103
		主管課	文化財課

1 施策基本情報

現状と課題	・地域を取り巻く社会環境は、急激な変化を遂げており、市民の学習要求の多様化・高度化に対応し、様々な地域課題や生活課題を解決するために、社会教育の重要性は高まっている。 ・更なる学習の充実を進め、「ひとづくり」を積極的に推進するとともに、地域・学校・行政の連携による推進体制の整備が望まれている。 ・学習ニーズを的確に把握し、市民の生涯にわたる自主的な学習活動が活性化するよう、様々な学習機会の提供や内容の充実、推進体制の整備が求められている。
めざす将来像（あるべき姿、基本的な考え方）	「市民が郷土の自然・風土やそれを舞台にして生きてきた人々の歴史や生きかたを正しく理解し、守り生かし、先人の叡智（えいち）に学び、深く郷土を愛し、その未来を創造する素地を養う学習館」としての役割を担っています。今後は、科学教育振興の拠点として、プラネタリウム投影・自然観察や科学工作などの講座を開催し、科学に親しむ機会を充実させていく。

施策指標		指標名称	指標の説明（単位）	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値
	①	年間入館者数	人	13,445	17,500 20,000
	②	プラネタリウム視聴者数	人	2,109	4,500 5,000
	③	市民研究員養成事業参加者数	実質人数（人）	65	80 100

施策の体系

施策の柱1

名称	博物館の運営と機能の維持	主管課	文化財課
詳細	貴重な資料を収集し、良好な状態で保存し、世代を超えて引き継いでいくとともに、調査研究した成果を教育に活かす。		

	まちづくりの目標指標	指標の説明（単位）	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値
1	企画運営会議案件数	会議案件数（件）	2	3 4
2	収集資料数	資料数（点）	50,000	51,500 53,000
3				

	柱を構成する主要事務事業	区分
1	博物館運営事業	実施
2	施設管理事業	実施
3	資料収集・保管事業	実施
4		
5		
6		

基本政策間連携

施策の柱2

名称	博物館事業の充実	主管課	文化財課
詳細	時代に即した新たな手法を導入した常設展示、充実した施設設備、魅力ある事業展開で、多くの市民が学ぶ場としてにぎわう博物館を目指す。		

	まちづくりの目標指標	指標の説明（単位）	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値
1	年間入館者数	人	13,445	17,500 20,000
2				
3				

	柱を構成する主要事務事業	区分
1	特別展等事業	実施
2	八ヶ嶽岳麓文芸館事業	実施
3		
4		
5		
6		

基本政策間連携

施策の柱3

名称	科学教育の振興	主管課	文化財課
詳細	プラネタリウム事業を始めとする科学教育を推進することで、21世紀の科学時代にたくましく生きる市民の育成を図る。		

	まちづくりの目標指標	指標の説明（単位）	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値
1	プラネタリウム視聴者数	人	2,109	4,500 5,000
2				
3				

	柱を構成する主要事務事業	区分
1	プラネタリウム事業の推進	実施
2	科学教育事業の推進	実施
3		
4		
5		
6		

基本政策間連携

施策評価シート

施策等名称	八ヶ岳総合博物館の充実	体系番号	0201020103
		主管課	文化財課

※施策の柱が4つ以上ある場合は下記へ記載

施策の体系

施策の柱4

名称	産学公民連携の推進	主管課	文化財課
詳細	産学公民の連携を進め、生涯学習活動の拠点のみならず、人的交流・観光交流等の拠点として、総合博物館をまちづくり・ひとづくりの要衝へと発展を図る。		

	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値
1	市民研究員養成事業参加者数	実質人数(人)	65	80 100
2				
3				

	柱を構成する主要事務事業	区分
1	市民研究員養成事業	実施
2	学校支援・連携事業(博物館運営事業と関連)	実施
3	公立大学法人諏訪東京理科大学連携事業(博物館運営事業と関連)	実施
4	博物館等各種施設との連携事業(博物館運営事業と関連)	実施
5		
6		

基本政策間連携

施策の柱5

名称		主管課	
詳細			

	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値
1				
2				
3				

	柱を構成する主要事務事業	区分
1		
2		
3		
4		
5		
6		

基本政策間連携

施策の柱6

名称		主管課	
詳細			

	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値
1				
2				
3				

	柱を構成する主要事務事業	区分
1		
2		
3		
4		
5		
6		

基本政策間連携

施策の柱7

名称		主管課	
詳細			

	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値
1				
2				
3				

	柱を構成する主要事務事業	区分
1		
2		
3		
4		
5		
6		

基本政策間連携

施策等名称	八ヶ岳総合博物館の充実	体系番号	0201020103
		主管課	文化財課

2 指標等の推移と変動要因

体系区分	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
指標No.		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
施策	年間入館者数	13,445	17,715	16,529			
1		17,500	101.23	94.45	0.00	0.00	0.00
変動要因等 2018年度	近年の年間入館者数と特殊要因。2015年度・12,150人、2016年度・13,445人(モバイルプラネタリウム導入)、2017年度・16,520人(雨予約による入館者の増)、2018年度・17,715人(開館30周年記念事業実施)						
変動要因等 2019年度	近年の年間入館者数と特殊要因。2016年度・13,445人(モバイルプラネタリウム導入)、2017年度・16,520人(雨予約による入館者の増)、2018年度・17,715人(開館30周年記念事業実施)、2019年度・16,529人(新型コロナウイルス流行による入館者の減少)						
変動要因等 2020年度							
変動要因等 2021年度							
変動要因等 2022年度							
施策	プラネタリウム視聴者数	2,109	4,172	4,005			
2		4,500	92.71	89.00	0.00	0.00	0.00
変動要因等 2018年度	・2016年7月、モバイルプラネタリウムを導入。2016年度・2,109人、2017年度・4,054人・2018年度・4,172人 ・視聴者数は、館内投影、学習投影、その他投影の合計値。視聴者数の増加は、プラネタリウム事業の浸透である。						
変動要因等 2019年度	・2016年7月、モバイルプラネタリウムを導入。2017年度・4,054人、2018年度・4,172人、2019年度・4005人 ・視聴者数は、館内投影、学習投影、その他投影の合計値。新型コロナウイルスの流行により、3月にプラネタリウムが開催できず、減						
変動要因等 2020年度							
変動要因等 2021年度							
変動要因等 2022年度							
施策	市民研究員養成事業参加者数	65	79	95			
3		80	98.75	118.75	0.00	0.00	0.00
変動要因等 2018年度	市民研究員養成事業第2期開始時点、2016年、5グループ・参加者65人。その後、5グループで9人の加入があり、2018年度、語り伝承グループが発足、参加者5人。市民(市民研究員)同士の交流や博物館活動発表展の効果による。						
変動要因等 2019年度	広報や、市の催事など市民研究員を紹介する機会があれば掲載や告知をし、また、市民研究員の紹介で、79人から95人に増加した。						
変動要因等 2020年度							
変動要因等 2021年度							
変動要因等 2022年度							
柱1	企画運営会議案件数	2	3	1			
1		3	100.00	33.33	0.00	0.00	0.00
変動要因等 2018年度	総合博物館の運営は、博物館協議会のほか、内容の専門性に応じて、企画運営会議に諮っていく。委員、事務局、双方が2件ずつの提案を目標としている。この年度は、事務局から2件提案した。(実施計画、翌年度事業計画)						
変動要因等 2019年度	今年度は1回しか開催できなかった。翌年度事業計画を提案したが、委員から、中長期的計画を求められ、来年度以降提案していく。						
変動要因等 2020年度							
変動要因等 2021年度							
変動要因等 2022年度							
柱1	収集資料数	50,000	50,282	52,417			
2		51,500	97.63	101.78	0.00	0.00	0.00
変動要因等 2018年度	総合博物館の収蔵資料は、人文科学資料、自然科学資料ともに多岐にわたるが、植物などの標本資料は充実しているとはいえない。市民研究員養成事業と連動させ、資料収集を進めていく。						
変動要因等 2019年度	旧民俗資料館時代からの古文書の整理を進めてきたが、今年度集中して行い、2,135点の台帳化が進んだ。自然科学資料は引き続き資料収集を行っている。						
変動要因等 2020年度							
変動要因等 2021年度							
変動要因等 2022年度							
		0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
変動要因等 2018年度							
変動要因等 2019年度							
変動要因等 2020年度							
変動要因等 2021年度							
変動要因等 2022年度							

施策等名称	八ヶ岳総合博物館の充実	体系番号	0201020103
		主管課	文化財課

3　評価・改革改善　　（単位：円）

評価	項　目		2018年 （前年度比）		2019年 （前年度比）		2020年 （前年度比）		2021年 （前年度比）		2022年 （前年度比）	
	投資額	事業費(円)	39,040,879		31,503,217	0.81	32,118,000	1.02				
		うち一財(円)	33,557,599		30,013,927	0.89	30,804,000	1.03				
		増減理由（一般財源前年度比±10%以上の場合に記載）										
	進捗評価		おおむね順調		おおむね順調							
	総合評価	主な取組内容や成果	・開館30周年記念事業を実施し、多くの入館者があった。新しいメニュー（地域観察会、毎月お楽しみ会、ﾌﾟﾗﾈﾀﾘｳﾑ特別投影、ｱﾝｺｰﾙｲﾍﾞﾝﾄ、自然観察路）を生み出し、博物館利用の選択肢を増やすことができた。 ・ﾓﾊﾞｲﾙﾌﾟﾗﾈﾀﾘｳﾑの視聴者は、着実に増加している。多くの市民の科学への関心が高まっている。 ・市民研究員養成講座（第2期）に実質79人の参加があり、30人が認定された。認定者には、より博物館活動に関わってもらう。 ・市民研究員の活動により、自然や文化に関する資料が多数収集、蓄積されている。		・坂本養川と堰についての常設展があるが、来館者からの要望があったが、説明する資料がなかった。企画展を開催し、資料を発行することができた。 ・モバイルプラネタリウムは、昨年度に続き着実に増加している。地区公民館への出張も増加している。 ・市民研究員養成講座（第2期）の参加者は、95人となり、増加した。・収蔵庫						
		課題	・社会の動向と市民ﾆｰｽﾞを的確に捉え、企画展を始め各種事業を実施し、市民に多くの学習機会を提供していく必要がある。 ・収集資料を通路に収納棚を設け、当面の対応をしている。くん蒸室の自然系資料収蔵庫への改修が必要である。		・社会の動向と市民ﾆｰｽﾞを的確に捉え、企画展を始め各種事業を実施し、市民に多くの学習機会を提供していく必要がある。 ・日々、寄贈資料があり、これに対して整						
改革・改善	改革・改善内容		・記念事業で新たに実施した講座・イベントは、今後も視点を変えて継続していく。 ・調査研究や資料収集を市民研究員とともに進めていく。 ・モバイルプラネタリウムの公民館分館への出前投影に応じるよう、公民館用出前カレンダーをつくり公表する。		・講座・イベントは、これまでの内容を再検討し、中止や新たに開講していく。 ・収蔵場所については、館外施設も含めて検討していく。 ・小中学校へ働きかけて、博物館の学校利用を促進していく。						
	施策の柱等の重点化	重点化する施策の柱	2		2							
		重点事務事業	1		1							
		理　由	地域の自然と文化に関する資料を収集し、それらを未来に伝えるために保存管理している。 その資料がもつ多数の情報を調査研究し、その成果を企画展などの形で、市民に提供するため。		地域の自然と文化に関する資料を収集し、それらを未来に伝えるために保存管理している。 その資料がもつ多数の情報を調査研究し、その成果を企画展や刊行物などの形で、市民に提供し、茅野市のまちづくりに反映させるため。						

作成担当者	両角英彦	柳川英司			
最終評価責任者	令和元年5月29日	北沢政英			
最終評価年月日	平出信次	2020年7月10日			